別紙様式第2

http://www.aabb.org/AABBContent/Templates/AABBSub.aspx?NRMODE=Publis... 2009/10/26 -

.

# 

ABJ2009206

	・報告回数			報告日	第一報入手日 2009年10月26日	新医薬品等の図	<b>公</b> 分	厚生労働省処理欄	
	段的名称	人 CI-インアクチベータ	······			該当なし			
		$\underline{\mathbb{O}}$	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		Report to the Board	of Directors:			
販売名		②ベリナート P 静注用:	500	研究報告の公表状況	Current Status of TSEs an	nd Transfusion	公表国		
		<ul> <li>(CSL ペーリング株式会社)</li> </ul>	500 5.5L)		Safety:AABB Weekly I 10月22日号Vol.15 No.39	Report 2009年	米国		
18	5日点 (ブリッ	(CSLマーリンク休氏)			IUH 22日号 Vol.15 No.39	'			· .
Т	TD (Transfusi	on Transmitted Diseases)	E 広 丁 // MM 型 と 同 - C //	一でない特定の人達の中が	いら見つかった)			使用上の注	意記載状況・
次	回会合で提出	予定である。報告の概	Committee か伝達性相	#稀状脑症(TSE)の状況	いら見つかった) および輸血の安全性に関	する報告書を AA	BB Board O	その他を	多考事項等
*	人の感染者	症状発現なし)が プロ	そねめ下のこわりでめ オン海にスのうけい		1				77.84
Ø	)可能性や潜在	的なキャリアのグルー	マノ風広士のコトノ プがサナオスァレルシ	129 週伝子が MM 型と同	ーでない特定の人達の中	から見つかり、あ	医患の第二波		
		vCJD プリオンが合計 4		して懸念されている。供	一でない特定の人達の中 血後に vCID を発症した(	供血者3人からお	取された血		
4	血者の3例に	いのDシリオンから前4	人に広館している。						
発	見されたが	風味あることにその奥日	でれる いいし の症状が そのプロナン海にえる	はく、他の原因で死亡し	た。その患者の脾臓とリ	ンパ節で異常プリ	オン蛋白が		
. int	加重要性に一	ハイの検針をいていた。	ョのノリオノ遺伝士の 加ァニナ 単に かす	コトン 129 が MV 型でお	た。その患者の脾臓とり) らることが判明した。非 M	MM 遺伝子型での	感染の潜在		
w VI	町田子劇初を	投与された一人のあたち	たに小り。取近、供血	俊に vCJD を発症した供	5ることが判明した。非 N 血者の血漿が含まれてい	たことが判明した	血液凝固第		
明 り	ング研究では	成功になることの単反が	の思るにおいて病原性	vCJD プリオンが発見さ	皿者の血漿が含まれていれれた。その患者は vCJD の	の症状が現れなか	った。モデ		
報 CI	のを発症した	他 かまからに いたい しん	「戦利によると不唆さ	れた。アメリカ赤十字社	れた。その患者は vCJD a は、Transfusion に掲載され	れた論文で、供血	後に古典的		
告血	液を投互され	たん16人の四曲半の川	テンスか不足してい	ると報告している。その	は、Transfusion に掲載され 研究では、供血後に CJD	を発症した 36人	の供血者の		
の雌鹿	者のコホート	フタディート比較オスト	シハック嗣直をした	か、CIDの症例はなかっ	た。暴口経験のある受血	者を英国の vCJD	に暴怒した		
虧 患	者のコホート	スタディーと比較するよ	こう たみにすていっ	い、この証例はなかう	た。泰蕗経験のある受血	者を英国の vCJD	に暴露した		
概息	者のコホートに関するエビ	スタディーと比較すると	CJD を発症するリス	っか有意に低かった(p	た。泰馨経験のある受血 = 0.012)。この研究は、「	者を英国の vCJD m血による古典的	に暴露した CJD の感染		
概要性果	者のコホート に関するエピ 、米国 FDA I	スタディーと比較すると デンスが不足しているこ は米国由来の血漿分面製	CJD を発症するリス とをサポートしてい 額の受血者に関する。	、CDの証例はなかう 、クが有意に低かった(p る。血友病患者及び非 MI	た。泰路経験のある受血 = 0.012)。この研究は、 M 型の特定の人達から vC	者を英国の vCJD m血による古典的 CJD プリオンが発	に暴露した CJD の感染 見された結		
機要果た	者のコホート に関するエビ 、米国 FDA F 伝達性海綿状	スタディーと比較すると デンスが不足しているこ は米国由来の血漿分画製 脳症諮問委員会で発表さ	CJD を発症するリス とをサポートしてい 剤の受血者に関する。	か、CDD の証例はなかっ クが有意に低かった(p る。血友病患者及び非 M CDD 伝播のリスクモデル	た。泰路経験のある受血 = 0.012)。この研究は、崎 M 型の特定の人達から vC を改訂した。新しいモデ	者を英国の vCJD 血による古典的 CJD プリオンが発 ルは 2009 年 6 月	に暴露した CJD の感染 見された結 に開催され		
機要 果たの	者のコホート に関するエビ 、米国 FDA I 伝達性海綿状 低さであり、	スタディーと比較すると デンスが不足しているこ は米国由来の血漿分画製 脳症諮問委員会で発表さ 最大の推定リスクは 120	CID を発症するリス とをサポートしてい 剤の受血者に関する、 れた。一人当たりの? 00人に1人のままが	、CD の証例はながっ 、クが有意に低かった(p る。血友病患者及び非 M CD 伝播のリスクモデル 年間の最低の推定リスク ちたず EDA は、メス目	た。泰路経験のある受血 = 0.012)。この研究は、 M 型の特定の人達から vC を改訂した。新しいモデ す5 66から 18 倍に上昇し	者を英国の vCJD 血による古典的 CJD プリオンが発 ルは 2009 年 6 月 たが、まだ 1200	に暴 <b>然</b> した CJD の感染 見された結 に開催され 万人に1人		
)概要	者のコホート に関するエビ 、米国 FDA + 伝達であり、 トプリオン遺	スタディーと比較すると デンスが不足しているこ は米国由来の血漿分画製 脳症諮問委員会で発表さ 最大の推定リスクは 120 伝子のコドン 129 には数	: CJD を発症するリス とをサポートしてい 額の受血者に関する、 れた。一人当たりの? 00 人に1人のまま変: 種のパリエーション?	い、CDDの証例はながっ 、クが有意に低かった(p る。血友病患者及び非 M CCD 伝播のリスクモデル 年間の最低の推定リスク もらず、FDA は、米国患 があり 3つの主要なき	た。泰路経験のある受血: = 0.012)。この研究は、 M 型の特定の人達から vC を改訂した。新しいモデ ま5 信から 18 倍に上昇し 者へのリスクは「極めて	者を英国の vCJD 血による古典的 CJD プリオンが発 ルは 2009 年 6 月 たが、まだ 1200	に暴 <b>然</b> した CJD の感染 見された結 に開催され 万人に1人		
)概要	者のコホート に関するエビ 、米達性声 FDA + 伝さでりオン した で 評価さ た ま で 評価さ	スタディーと比較すると デンスが不足しているこ は米国由来の血漿分画製 脳症諮問委員会で発表さ 最大の推定リスクは 120 伝子のコドン 129 には数 れた全ての症候性の vori	: CID を発症するリス とをサポートしてい 網の受血者に関する、 れた。一人当たりのの 00人に1人のまま変 種のパリエーション。	か、Ch の	た。泰鷸種数のある受血。 = 0.012)。この研究は、翰 W 型の特定の人達から vC を改訂した。新しいモデ ま5倍から 18倍に上昇し 者へのリスクは「極めて 云子型、MM 型、MV 型と	者を英国の vCJD 論血による古典的 JD プリオンが発 ルは 2009 年 6 月 たが、まだ 1200 低い」と見なして : VV 型がある。	に暴露した CJD の感染 見された結 に開催され 万人に1人 ている。		
)概要	者のコホート に関するエビ 、米国 FDA + 伝さであり、 たまでリオン遺 在まの約 40%	スタディーと比較すると デンスが不足しているこ は米国由来の血漿分画製 脳症諮問委員会で発表さ 最大の推定リスクは 120 低子のコドン 129 には数 れた全ての症候性の vCJ がこの遺伝子型である。	CDD を発症するリス そのD を発症するリス そをサポートしてい 網の受血者に関する、 れた。一人当たりの 00人に1人のまま変 種のパリエーション D 患者のコドン1290 しかし海原性プロサ	が、CDD の社内はなかう くか有意に低かった(p る。血友病患者及び非 M CDD 伝播のリスクモデル 年間の最低の推定リスク( わらず、FDA は、米国患 があり、3 つの主要な遺( り遺伝子型が MM 型であ ングが MY または MU 等)	た。泰鷸種数のある受血。 = 0.012)。この研究は、輸 V 型の特定の人達から vC を改訂した。新しいモデ ま5倍から 18倍に上昇し 者へのリスクは「極めて 云子型、MM 型、MV 型と った。	者を英国の vCJD 血による古典的 JD ブリオンが発 ルは 2009 年 6 月 たが、まだ 1200 低い」と見なして - VV 型がある。	に暴 <b>銘</b> した CJD の感染 見された結 に開催され 万人に1人 ている。		
)概要	者のコホート に 、 米国 FDA + 伝さて リオン 造 で お か よ た て し 、 定 て の よ 、 世 本 島 い 、 、 定 て の よ 、 、 、 浩 性 て あ ら い 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	スタディーと比較すると デンスが不足しているこ は米国由来の血漿分画製 脳症筋間委員会で発表さ 最大の推定リスクは120 伝子のコドン129には数 れた全ての症候性の vCJ がこの遺伝子型である。 が生じてくる。鼻和の疑	CDD を発症するリス とをサポートしてい。 剤の受血者に関する、 れた。一人当たりの。 00 人に1 人のまま変 種のパリエーション D 患者のコドン 129 0 しかし病原性プリオ、 間は、非 MM WFC2	が、Ch の 40 (4 (4 がっ) くか有意に低かった (p る。血友病患者及び非 M CD 伝播のリスクモデル 年間の最低の推定リスク( わらず、FDA は、米国患 があり、3 つの主要な遺( の)遺伝子型が MM 型であ ンが MV または VV 遺伝:	た。泰鷸	者を英国の vCJD 計画による古典的 CJD プリオンが発 ルは 2009 年 6 月 たが、まだ 1200 低い」 と見なして こ VV 型がある。 童で発見されてい	に暴露した CJD の感染 見された結 に開催され 万人に1人 ている。 る。これに		
)概要	者のコホートビ 、 伝低 ト 在国 り 500	スタディーと比較すると デンスが不足しているこ は米国由来の血漿分画製 脳症諸問委員会で発表さ 最大の推定リスクは120 伝子のコドン129には数 れた全ての症候性の vCJ がこの遺伝子型である。 が生じてる。最初の疑 がより長期化したためで	CDD を発症するリス とをサポートしてい。 剤の受血者に関する、 れた。一人当たりの。 00 人に1 人のまま変 種のパリエーション D 患者のコドン 129 0 しかし病原性プリオ、 間は、非 MM WFC2	が、Ch の 40 (4 (4 がっ) くか有意に低かった (p る。血友病患者及び非 M CD 伝播のリスクモデル 年間の最低の推定リスク( わらず、FDA は、米国患 があり、3 つの主要な遺( の)遺伝子型が MM 型であ ンが MV または VV 遺伝:	た。泰鷸	者を英国の vCJD 計画による古典的 CJD プリオンが発 ルは 2009 年 6 月 たが、まだ 1200 低い」 と見なして こ VV 型がある。 童で発見されてい	に暴露した CJD の感染 見された結 に開催され 万人に1人 ている。 る。これに		
)概要	者のコホートビ 、 伝低 ト 在国 り 500	スタディーと比較すると デンスが不足しているこ は米国由来の血漿分画製 脳症筋間委員会で発表さ 最大の推定リスクは120 伝子のコドン129には数 れた全ての症候性の vCJ がこの遺伝子型である。 が生じてくる。鼻和の疑	CDD を発症するリス とをサポートしてい。 剤の受血者に関する、 れた。一人当たりの。 00 人に1 人のまま変 種のパリエーション D 患者のコドン 129 0 しかし病原性プリオ、 間は、非 MM WFC2	が、Ch の 40 (4 (4 がっ) くか有意に低かった (p る。血友病患者及び非 M CD 伝播のリスクモデル 年間の最低の推定リスク( わらず、FDA は、米国患 があり、3 つの主要な遺( の)遺伝子型が MM 型であ ンが MV または VV 遺伝:	た。泰鷸種数のある受血。 = 0.012)。この研究は、輸 V 型の特定の人達から vC を改訂した。新しいモデ ま5倍から 18倍に上昇し 者へのリスクは「極めて 云子型、MM 型、MV 型と った。	者を英国の vCJD 計画による古典的 CJD プリオンが発 ルは 2009 年 6 月 たが、まだ 1200 低い」 と見なして こ VV 型がある。 童で発見されてい	に暴露した CJD の感染 見された結 に開催され 万人に1人 ている。 る。これに		
)概要	者のコホートビ 、 伝低 ト 在国 り 500	スタディーと比較すると デンスが不足しているこ は米国由来の血漿分画製 脳症諸問委員会で発表さ 最大の推定リスクは120 伝子のコドン129には数 れた全ての症候性の vCJ がこの遺伝子型である。 が生じてる。最初の疑 がより長期化したためで	CDD を発症するリス とをサポートしてい。 剤の受血者に関する、 れた。一人当たりの。 00 人に1 人のまま変 種のパリエーション D 患者のコドン 129 0 しかし病原性プリオ、 間は、非 MM WFC2	が、Ch の 40 (4 (4 がっ) くか有意に低かった (p る。血友病患者及び非 M CD 伝播のリスクモデル 年間の最低の推定リスク( わらず、FDA は、米国患 があり、3 つの主要な遺( の)遺伝子型が MM 型であ ンが MV または VV 遺伝:	た。泰鷸経験のある受血。 = 0.012)。この研究は、輸 M 型の特定の人達から vC を改訂した。新しいモデ ま5倍から 18 倍に上昇し 者へのリスクは「極めて、 云子型、MM 型、MV 型と った。 子型である無症候性の人 第二波」が起こるかどうか vCID プリオンの感染キャ	者を英国の vCJD 計画による古典的 CJD プリオンが発 ルは 2009 年 6 月 たが、まだ 1200 低い」 と見なして こ VV 型がある。 童で発見されてい	に暴露した CJD の感染 見された結 に開催され 万人に1人 ている。 る。これに		
と 現 美 よ た こ し 現 英 よ た こ し 見 英 よ た こ し 見 英 よ た こ し 見 英 よ た こ し し 見 英 よ た こ し し む し む む む む む む む む む む む む む む む	者に、、伝体ト在国りての時代の日本では、 する工作の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の	スタディーと比較すると デンスが不足しているこ は米国由来の血漿分画製 脳症諮問委員会で発表さ 最大の推定リスクは120 な子のコドン129には数 れた全ての症候性の vCJ がこの遺伝子型である。 が生じてくる。最初の疑 がより長期化したためで うとも解決が待たれる。 報告企業の意見	CDD を発症するリス とをサポートしてい 網の受血者に関する、 れた。一人当たりの 00 人に1 人のまま変 種のパリエーション D 患者のコドン 129 0 しかし病原性プリオ: 問は、非 MM 遺伝子 ある。二番目は非 MM	が、CDD の社内はなから くか有意に低かった(p る。血友病患者及び非 M CDD 伝播のリスクモデル 年間の最低の推定リスク した。 下DA は、米国患 があり、3 つの主要な遺作 り遺伝子型が MM 型であ ンが MV または VV 遺伝 ンが MV または VV 遺伝 2 型の人違での vCD の「約 4 遺伝子型を持つ人違が	た。泰鷸種数のある受血。 = 0.012)。この研究は、輸 W型の特定の人達から vC を改訂した。新しいモデ ま5倍から 18倍に上昇し 者へのリスクは「極めて 云子型、MM型、MV型と った。 子型である無症候性の人資 *CD プリオンの感染キャ 会後の対応	者を英国の vCDD 約 (による古典的 20 フリオンが発 いは 2009 年 6 月 たが、まだ 1200 低い」と見なして こ VV 型がある。 童で発見されてい いということであ ・リアになり得る	に暴露した CJD の感染 見された結 に開催され 万人に1人 ている。 る。これに		
は、その ヒ現英よたこのと 現英 よたこの と 現 英 よた この と 現 英 よた この と 現 数 よた この と 知 数 品 を いん	<ul> <li>者に、、伝体</li> <li>するエチマン</li> <li>ホるエチマン</li> <li>ホるエチマン</li> <li>ホるエチマン</li> <li>ホるエチマン</li> <li>たまった</li> <li>たまっ</li></ul>	スタディーと比較すると デンスが不足しているこ は米国由来の血漿分画製 脳症諮問委員会で発表さ 成子のコドン129には数 れた全ての症候性の vCJ がこの遺伝子型である。 が生じてくる。最初の疑 びより長期化したためで うとも解決が待たれる。 報告企業の意見 斗血漿は、ドイツ、米国。	CDD を発症するリス とをサポートしてい 網の受血者に関する、 れた。一人当たりの 00 人に1人のション D 患者のコドン129 0 しかし病原性プリオ: 問は、非MM 遺伝プ ある。二番目は非 MM	A. Ch の 社内は(なかう) くか有意に低かった(p) る。血友病患者及び非 M CD 伝播のリスクモデル 年間の最低の推定リスク( わらず、FDA は、米国患 があり、3 つの主要な遺行 D遺伝子型が MM 型であ ンが MV または VV 遺伝 型の人違での vCD の「3 4 遺伝子型を持つ人達が	た。泰鷸種数のある受血。 = 0.012)。この研究は、輸 W型の特定の人達から vC を改訂した。新しいモデ ま5倍から 18倍に上昇し 者へのリスクは「極めて 云子型、MM型、MV型と った。 子型である無症候性の人資 *CD プリオンの感染キャ 会後の対応	者を英国の vCDD 約 (による古典的 20 フリオンが発 いは 2009 年 6 月 たが、まだ 1200 低い」と見なして こ VV 型がある。 童で発見されてい いということであ ・リアになり得る	に暴露した CJD の感染 見された結 に開催され 万人に1人 ている。 る。これに		
)概要 患性果たのヒ現英よたこ 品たた。	オに、 「本の」では、 「本の」では、 「本の」では、 「本の」では、 「本の」では、 「本の」では、 「、、 「本の」では、 「、、 「、、 「、、 「、、 「、、 「、、 「、、 「	スタディーと比較すると デンスが不足しているこ は米国由来の血漿分画製 脳症諮問委員会で発表さ 最大の推定リスクは120 な子のコドン129には数 れた全ての症候性の vCJ がこの遺伝子型である。 が生じてくる。最初の疑 がより長期化したためで うとも解決が待たれる。 報告企業の意見	CDD を発症するリス とをサポートしてい 網の受血者に関する、 れた。一人当たりの 00 人に1人のション D 患者のコドン129 0 しかし病原性プリオ: 問は、非MM 遺伝プ ある。二番目は非 MM	A. Ch の 社内は(なかう) くか有意に低かった(p) る。血友病患者及び非 M CD 伝播のリスクモデル 年間の最低の推定リスク( わらず、FDA は、米国患 があり、3 つの主要な遺行 D遺伝子型が MM 型であ ンが MV または VV 遺伝 型の人違での vCD の「3 4 遺伝子型を持つ人達が	た。泰鷸経験のある受血。 = 0.012)。この研究は、輸 M 型の特定の人達から vC を改訂した。新しいモデ ま5倍から 18 倍に上昇し 者へのリスクは「極めて、 云子型、MM 型、MV 型と った。 子型である無症候性の人 第二波」が起こるかどうか vCID プリオンの感染キャ	者を英国の vCDD 約 (による古典的 20 フリオンが発 いは 2009 年 6 月 たが、まだ 1200 低い」と見なして こ VV 型がある。 童で発見されてい いということであ ・リアになり得る	に暴露した CJD の感染 見された結 に開催され 万人に1人 ている。 る。これに		
) 概要 土 の ヒ 現英よたこ 品ま集 し 、 取	者に、大臣によって、 「有に、大臣に、 「日本」、 「一本」、	スタディーと比較すると デンスが不足しているこ は米国由来の血漿分画製 脳症糖問委員会で発表さ 最大の推定リスクは120 伝子のコドン129には数 れた全ての症候性のvCJ がこの遺伝子型である。 が生じてくる。最初の疑 でより長期化したためで シとも解決が待たれる。 報告企業の意見 斗血漿は、ドイツ、米国、 に期間、通算滞在歴に基	CDD を発生するリス ととをサポートしてい 剤の受血者に関する、 れた。一人当たりの 00人に1人のまま変、 種のパリエーション D 患者のコドン 129 0 しかし病原性プリオ: 間は、非 MM 遺伝子 ある。二番目は非 MM オーストリア由来で がき供血停止基準を設	<ul> <li>ハ、CD の証例は(から)</li> <li>ハン(うが有意に低かった(p)</li> <li>る。血友病患者及び非 M</li> <li>CD 伝播のリスクモデル</li> <li>年間の最低の推定リスク</li> <li>わらず、FDA は、米国患</li> <li>があり、3 つの主要な遺信</li> <li>り遺伝子型が MM 型であ</li> <li>ンが MV または VV 遺伝</li> <li>型の人達での vCID の「3</li> <li>(遺伝子型を持つ人達が</li> <li>今後とも新しい感染症は</li> </ul>	た。泰鷸種数のある受血。 = 0.012)。この研究は、輸 W型の特定の人達から vC を改訂した。新しいモデ ま5倍から 18倍に上昇し 者へのリスクは「極めて 云子型、MM型、MV型と った。 子型である無症候性の人資 *CD プリオンの感染キャ 会後の対応	者を英国の vCDD 約 (による古典的 20 フリオンが発 いは 2009 年 6 月 たが、まだ 1200 低い」と見なして こ VV 型がある。 童で発見されてい いということであ ・リアになり得る	に暴露した CJD の感染 見された結 に開催され 万人に1人 ている。 る。これに		
8 一般である。 「「「「「」」」、 「「」」、 「」、 「」、 「」、 「」、 「」、 「」、	<ul> <li>者に、、伝低ト在国り 5 FDA・ ・</li> <li>本 広低ト 在国り 2 FDA・ ・</li> <li>大 達さ で ブ ま への 5 年の 約 5 年の 約 5 年の 7 年の 約 5 年の 7 年の 3 年の 7 年の 5 年の 5</li></ul>	スタディーと比較すると デンスが不足しているこ は米国由来の血漿分画製 脳症諮問委員会で発表さ 最大の推定リスクは120 気子のコドン129には数 れた全ての症候性の vCI がこの遺伝子型である。 が生じてくる。最初の疑 がより長期化したためで うとも解決が待たれる。 報告企業の意見 料血漿は、ドイツ、米国、 三期間、通算滞在歴に基 二工程において異常プリス 論的な vCID 等の伝播の1	CDD を発生するリス ととをサポートしてい 剤の受血者に関する、 れた。一人当たりのの の人に1人のまま変、 種のパリエーション D 患者のコドン129の しかし病原性プリオ、 間は、非MM 遺伝子 ある。二番目は非MM オーストリア由来で びき供血停止基準を設 トンを低減し得るとのの	A、CD の社内はなから くが有意に低かった(p る。血友病患者及び非 M CD 伝播のリスクモデル 年間の最低の推定リスクト わらず、FDA は、米国患 があり、3 つの主要な遺( り遺伝子型が MM 型であ ンが MV または VV 遺伝 型の人達での vCD の「5 (遺伝子型を持つ人達が	た。泰鷸種数のある受血。 = 0.012)。この研究は、輸 W型の特定の人達から vC を改訂した。新しいモデ ま5倍から 18倍に上昇し 者へのリスクは「極めて 云子型、MM型、MV型と った。 子型である無症候性の人資 *CD プリオンの感染キャ 会後の対応	者を英国の vCDD 約 (による古典的 20 フリオンが発 いは 2009 年 6 月 たが、まだ 1200 低い」と見なして こ VV 型がある。 童で発見されてい いということであ ・リアになり得る	に暴露した CJD の感染 見された結 に開催され 万人に1人 ている。 る。これに		
機要 生の ヒ 現英 よたこ 品 ま 集添あいのがない	オに、伝低ト在国人の対応の目前に、伝低ト在国人の対応の目前に、伝信ト在国人の対応の対応のは、「ないない」であった。 4000000000000000000000000000000000000	スタディーと比較すると デンスが不足しているこ は米国由来の血漿分面製ご 騒気の推定リスクは120 伝子のコドン129には数 がより長期化したため。 観行の遺伝子型である。 がより長期化したため。 報告企業の意見 料血漿は、ドイツ、米国、 ご期間、通算滞在歴に基づ において異常プリス 論的な vCD 等の気活のリス 論的な vCD 等のの活播のリ	CDD を発症するリス とをサポートしてい 朝の受血者に関する、 れた。一人当たりの 00人に1人のまま変 種のパリエーション D 患者のコドン 129 0 しかし病原性プリオ: 間は、非 MM 遺伝子 ある。二番目は非 MM オーストリア由来で びき供血停止基準を設 トンを低減し得には排除 国を十分だし、始め	か、こ日の進費はなかう くが有着に低かった(p る。血友病患者及び非M CDD 伝播のリスクモデル 年間の最低の推定リスク わらず、FDA は、米国患 があり、3 つの主要な遺信 り遺伝子型が MM 型であ ンが MV または VV 遺伝 型の人達での vCD の「3 イ遺伝子型を持つ人達が	た。泰鷸種数のある受血。 = 0.012)。この研究は、輸 W型の特定の人達から vC を改訂した。新しいモデ ま5倍から 18倍に上昇し 者へのリスクは「極めて 云子型、MM型、MV型と った。 子型である無症候性の人資 *CD プリオンの感染キャ 会後の対応	者を英国の vCDD 約 (による古典的 20 フリオンが発 いは 2009 年 6 月 たが、まだ 1200 低い」と見なして こ VV 型がある。 童で発見されてい いということであ ・リアになり得る	に暴露した CJD の感染 見された結 に開催され 万人に1人 ている。 る。これに		
8 低要 として 男友 よたこ おま 集添あいの おた し 休 あいのがな ない しんしょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう	オに、伝低ト在国人の対応の目前に、伝低ト在国人の対応の目前に、伝信ト在国人の対応の対応のは、「ないない」であった。 4000000000000000000000000000000000000	スタディーと比較すると デンスが不足しているこ は米国由来の血漿分画製」 脳症諮問委員会で発表さ 最大の推定リスクは120 伝子のコドン129には数 れた全ての症候性の vCI がこの遺伝子型である。 が生じてくる。最初の疑 がより長期化したためで うとも解決が待たれる。 報告企業の意見 料血漿は、ドイツ、米国、 ご期間、通算滞在歴に基 工程において異変ブリッ	CDD を発症するリス とをサポートしてい 朝の受血者に関する、 れた。一人当たりの 00人に1人のまま変 種のパリエーション D 患者のコドン 129 0 しかし病原性プリオ: 間は、非 MM 遺伝子 ある。二番目は非 MM オーストリア由来で びき供血停止基準を設 トンを低減し得には排除 国を十分だし、始め	か、こ日の進費はなかう くが有着に低かった(p る。血友病患者及び非M CDD 伝播のリスクモデル 年間の最低の推定リスク わらず、FDA は、米国患 があり、3 つの主要な遺信 り遺伝子型が MM 型であ ンが MV または VV 遺伝 型の人達での vCD の「3 イ遺伝子型を持つ人達が	た。泰鷸種数のある受血。 = 0.012)。この研究は、輸 W型の特定の人達から vC を改訂した。新しいモデ ま5倍から 18倍に上昇し 者へのリスクは「極めて 云子型、MM型、MV型と った。 子型である無症候性の人資 *CD プリオンの感染キャ 会後の対応	者を英国の vCDD 約 (による古典的 20 フリオンが発 いは 2009 年 6 月 たが、まだ 1200 低い」と見なして こ VV 型がある。 童で発見されてい いということであ ・リアになり得る	に暴露した CJD の感染 見された結 に開催され 万人に1人 ている。 る。これに		

	Prej	5. tran	4. F	3. F 200	2	두 구	Ref	its i trar
· · ·	pared by TT	Dorsey K, Z sfusion tran	lealth Prote ∷//www.dh.g	3. Health Protectio 2009]. Available fr <u>p=1225960597236</u>	-lealth Prote //www.hpa.	fewitt PE, Li Transfusion	References:	Its implementat transfusion.
	Prepared by TTD Committee, October, 2009	ou S, Schonberge smission of Creut	otion Agency. vC	ction Agency, Asy s from: <u>http://www. 236</u>	2. Health Protection Agency. CDR weekly, Vol. 16 N http://www.hpa.org.uk/cdr/archives/2006/cdr0606.pdf	lewelyn CA, Mack Medicine Epidemi		tion. A process ha
· · · · · ·	ober, 2009.	r LB, Sullivan M rfeldt-Jakob disi	JD Risk assessr onsandstatistics	mptomatic vCJD hpa.org.uk/web	R weekly, Vol. 1 s/2006/cdr0606	enzie J, Will RG blogic Review st		is also been dev
		5 . Dorsey K, Zou S, Schonberger LB, Sullivan M, Kessler D, Notari E 4th, Fang CT, Dodd RY. Lack of evidence of transfusion transmission of Creutzfeldt–Jakob disease in a US surveillance study. Transfusion 2009;49:977-84.	<ol> <li>Health Protection Agency. vCJD Risk assessment calculations for a patient with multiple routes of exposure http://www.dh.gov.uk/en/Publicationsandstatistics/Publications/PublicationsPolicyAndGuidance/DH_100357</li> </ol>	<ol> <li>Health Protection Agency. Asymptomatic vCJD abnormal prion protein found in a haemophilia patient. [cited June 2009]. Available from: <u>http://www.hpa.org.uk/webw/HPAweb&amp;HPAweb&amp;Iandard/HPAweb_C/11957338186817</u> p=1225960597236</li> </ol>	<ol> <li>Health Protection Agency. CDR weekly, Vol. 16 No 6; 9February 2006. [cited 2009 May]. Available from: http://www.hpa.org.uk/cdr/archives/2006/cdr0606.pdf</li> </ol>	<ol> <li>Hewitt PE, Llewelyn CA, Mackenzie J, Will RG. Creutzfeldt–Jakob disease and blood transfusion: results of the UKTransfusionMedicine Epidemiologic Review study. Vox Sang 2006;91:221-30.</li> </ol>		its implementation. A process has also been developed for use in the manufacture of solvent-detergent treated plasma for transfusion.
		th, Fang CT, Dodd RY ce study. Transfusion	patient with multiple ro nsPolicyAndGuidance	n found in a haemophi tandard/HPAw <u>eb_C/1</u>	6. [cited 2009 May]. A	ease and blood transf 1:221-30.	-	anufacture of solvent-
	•	. Lack of evidence of 2009;49:977-84.	utes of exposure. <u>v/DH_100357</u>	lia patient. [cited June <u>195733818681?</u>	vailable from:	usion: results of the		detergent treated pla
			•	۵				isma for

別紙様式

http://www.aabb.org/AABBContent/Templates/AABBSub.aspx?NRMODE=Publis... 2009/10/26 113

> 医薬品 研究報告 調査

識別番号·報告回数		報告日	第一報入手日 2009.9.16	新医薬品等の区分 該当なし	総合機構処理欄
一般的名称	抗HBs人免疫グロブリン		FDA, CBER. Availab	公表国	
販売名(企業名)	抗HBs人免疫グロブリン「日赤」(日本赤十字社) 抗HBs人免疫グロブリン結注200単位/1mL「日赤」(日 本赤十字社) 抗HBs人免疫グロブリン結注1000単位/5mL「日赤」 (日本赤十字社)	研究報告の公表状況	http://www.fda.gov/ dVaccines/SafetyAva dSafety/ucm095070.]	BiologicsBloo ilability/Bloo	
・近年、米国承認 ド(vW)病患者の ・リスク評価に基づ 者のvCJD感染少 由来製剤からのv ・新たな情報を得 (追加情報) 2003年11月~200 可能性についてて 期を勧告した。米 遊工程における奴 含め、血友病、vW め、欧州渡航歴の	は血漿由来第2個因子製剤によるvCJD感 血漿由来第2個因子製剤(pdFVIII, Antih 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD) うき、FDA、CDC、NIHを含む米国の公務 ペクは、はっきりとはわからないものの、射 CJD感染リスクは同程度か、更に小さい るためには、血友病治療センターの血力 るためには、血友病治療センターの血力 7年4月に英国で、赤血球輸血によりvC 気念が高まった。このためFDAは、vCJD 国では、これまでvCJDを発症した人の加 pdFVIII製剤は、他の血漿由来製剤とH 当理でvCJD感染因子は減少すると考えら V病、その他の血液凝固障害患者がvC Dある人の供血延期など様々な対策を実 に点が多く正確なリスク評価は不可能で	emophilic Factor)の投与 ) 感染リスクに関する疑問が を衛生総局(PHS)は、pdF 言常に小さい可能性が最も ようである。 て病またはvW病の専門家 JDに感染したと考えられ。 とBSEの発生率が米国と出 血漿から作られたpdFVII したべてJD感染因子を多く られる。FDA、CDC、NIHの IDを発症したという報告は に施している。FDAはpdFV	が提起されている。 VIII製剤の投与を受 考えられる。第IX因 に連絡するのが良い たって非常に高い国 以剤はなく、製剤を投 く含むと考えられる。 認識している限り、 ない。FDAはtvCJDG III製剤のvCJD感染」	けた血友病AとvW病患 子製剤を含む他の血漿 方法である。 血液製剤のvCJD伝播の に渡航した人の供血延 与された人がvCJDを発 また、血漿由来製剤の製 リスクの最も高い英国を 試播の可能性低減のた レスクを分析したが、有病	vCJD等の伝播のリスク
米国食品医薬品局が、 与を受けた血友病Aおよ 感染リスクの可能性につ 非常に小さい可能性が引 告である。生涯反復使用	などのなどのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またので、おりまたので、おりまたので、おりまたので、なりまたので、なりまたので、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ない		(行及び居住)を確範 期限に献血延期とし 国内で発生したことか 9英国滞在歴のある」	ている。また、英国滞在 、卒成17年6月1日より しの献血を制限してい	
77-7-7-79 Bar C79117 Da	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				MedDRA/J Ver.12.0J

No. 30

JRC2009T-050

## Vaccines, Blood & Biologics

## Potential vCJD Risk From US Licensed Plasma-Derived Factor VIII (pdFVIII, Antihemophilic Factor) Products: Summary Information, Key Points

### **Summary Information**

### **Key Points:**

- In recent years, questions have been raised concerning the risk of variant Creutzfeldt-Jakob disease (vCJD) (a rare but fatal brain infection) to hemophilia A and von Willebrand disease patients who receive US licensed plasma-derived Factor Eight (pdFVIII, Antihemophilic Factor) products.
- Based on a risk assessment, the US Public Health Service (PHS), including FDA, CDC, and NIH, believes that the risk of vCJD to hemophilia A and von Willebrand disease patients who receive US licensed pdFVIII products is most likely to be extremely small, although we do not know the risk with certainty. vCJD risk from other plasma derived products, including Factor IX, is likely to be as small or smaller.
- Contacting a specialist in hemophilia or von Willebrand disease at a Hemophilia Treatment Center is a good way to learn about new information as it becomes available.

### Additional Information:

- Between December 2003 and April 2007, there have been four reports of people, all in the UK, who probably acquired the vCJD agent through red blood cell transfusions. This has increased concern about the potential transmission of vCJD by blood products.
- Principal concerns are whether persons infected with vCJD could donate plasma in the U.S., and whether clotting factor products made from their plasma donations might transmit the disease.
- To address these concerns FDA recommends the deferral of donors who may have lived in or traveled extensively to countries with a higher prevalence of vCJD and bovine spongiform encephalopathy (BSE) than in the U.S.
- In the United States, pdFVIII products have not been made from the plasma of anyone known to have developed vCJD, and no one who received any of these products is known to have developed vCJD.

115

• FDA conducted a risk assessment for pdFVIII because the plasma fraction from which it is made is likely to contain more of the vCJD infectious agent, if present, than plasma fractions from which other plasma-derived products are made, such as Factor IX, (used to treat hemophilia B), albumin, and immune globulins. The FVIII-containing fraction is further processed using a variety of methods that are likely to reduce or potentially eliminate vCJD from the final pdFVIII product. Methods likely to reduce or potentially eliminate vCJD are also used in the manufacture of other plasma-derived products.

rotential VUID Risk From US Licensed riasina-Derived ractor VI... http://www.toa.gov/biologicsbioodvaccines/SaletyAvailability/b..

- FDA, CDC, and NIH are not aware of any cases of vCJD having been reported worldwide in patients with hemophilia, von Willebrand disease, or other blood clotting disorders. This includes those who have received, over a long period of time, large amounts of blood clotting factor products manufactured from plasma donations from the UK where the risk of vCJD is highest because of a previous higher risk of potential exposure to BSEinfected beef in the UK diet.
- The FDA has taken a number of steps to further reduce the potential vCJD risk from blood components. These steps include donor deferral recommendations, and quarantine and withdrawal of products at increased vCJD risk. Donor deferral guidance, first issued in August 1999 and subsequently updated, includes, among other things, deferral of donors who visited or resided in Europe where BSE prevalence is higher than in the US. Also, blood components and plasma derivatives are to be withdrawn if a donor is later diagnosed with vCJD. The potential spread of vCJD through red blood cell or plasma transfusion is limited by these deferral and quarantine measures that are in place.
- Additional steps FDA is taking to reduce potential vCJD risk from plasma derivatives include gathering, evaluating, and disseminating information about manufacturing processes that potentially could reduce the vCJD infectious agent in blood products. FDA is helping to develop donor screening and diagnostic tests for vCJD, and to inform patients and physicians about the current scientific understanding of vCJD risk from blood products.
- Using a computer model, FDA assessed the potential risk of vCJD infection from the current use of pdFVIII products. However, because so much is unknown about vCJD and its prevalence, the risk assessment performed by FDA has a lot of uncertainty, making it impossible to precisely estimate the risk of vCJD in general, or of the actual risk to individual hemophilia A or von Willebrand disease patients. Meaningful distinctions also could not be made among specific products. There is no test yet available to detect vCJD infection in healthy donors or recipients.
- Although the risk of vCJD exposure from US pdFVIII products is most likely to be extremely small, it may not be zero, and FDA is encouraging physicians and patients to consider this risk, in the context of all remaining real or potential risks and the known benefits of product use, when making treatment decisions.
- At this time, the PHS does not believe there is a need for hemophilia A and von Willebrand disease patients who receive pdFVIII to inform their surgeons or dentists about their potential exposure to vCJD. Also, there is no recommendation for surgeons and dentists to take any special precautions based on such potential exposures. This belief is based on the results of the FDA risk assessment, as well as on the lack of known cases of vCJD transmitted by plasma-derived clotting factor products in the UK or anywhere else in the world. PHS agencies will continue to monitor and reevaluate the situation as new information becomes available.
- vCJD originally came from a disease in cattle called "mad cow disease" or

116

Office of Communication, Outreach and Development Food and Drug Administration 1401 Rockville Pike Suite 200N/HFM-47 Rockville, MD 20852-1448 117	Contact Us <ul> <li>(800) 835-4709</li> <li>(301) 827-1800</li> <li>ocod@ftla.hhs.gov</li> </ul> Consumer Affairs Branch (CBER)	<ul> <li>Creutzfeldt-Jakob Disease)</li> <li>US Department of Agriculture</li> <li>Information also may be obtained from these non-government sources:         <ul> <li>Committee of Ten Thousand</li> <li>Hemophilia Federation of America</li> <li>National Hemophilia Foundation and/or HANDI</li> <li>World Federation of Hemophilia</li> </ul> </li> </ul>	<ul> <li>beer and beer products appears to be negligible.</li> <li>More information about vCJD is available on these government websites:         <ul> <li><u>EDA: Potential Risk of Variant Creutzfeldt-Jakob Disease (vCJD)</u></li> <li><u>From Plasma-Derived Products</u></li> <li>Centers for Disease Control and Prevention: vCJD (Variant</li> </ul> </li> </ul>	<ul> <li>From 1995 through April 2007, 202 individuals with vCJD were reported worldwide, with 165 in the United Kingdom (UK), and three in the United States. Two of the individuals in the United States had lived in the UK from 1980-1996 during a key exposure period to the BSE agent. The third US individual with vCJD most likely acquired the disease in Saudi Arabia. The reported incidence of vCJD in the UK based on disease onset peaked in 1999 and has been declining thereafter. In the UK, where most cases of vCJD have occurred, the current risk of acquiring vCJD from eating</li> </ul>	<ul> <li>BSE (bovine spongiform encephalopathy) . Transmission of the BSE agent to humans, leading to vCJD, is believed to occur primarily from eating beef and beef products contaminated with the BSE agent. Both BSE and vCJD are invariably fatal brain diseases with incubation periods typically measured in years.</li> </ul>
	医薬品 医薬部外品 化粧品	研究報告 調查報告書			別紙様式第 2-1 番号 12
議別番号・報告回数           一般的名称         人ハプトグロビン           販売名 (企業名)         ハプトグロビン静注 2000 単位「ベネシス」	報告日       研究報告の (ベネシス)	第一報入手日 2009年11月10日 Yox Songuinis 2009; 97: 207-		厚生労働省処理欄 用上の注意記載状況・そ	の始奏李東西英

	病患者の体内で異常プリオンタンパク質が検出さ	れたことが最近報告さ	れたことから、現在で	も懸念されている。
研	(目的)	•		1997 - 1998 - E
	央国の WJD 臨床症例について過去に皿菜分園型	以剤への暴露があったか	い説明すること。	1
究	(方法)			· .

国立 CJD サーベイランスユニット(National CJD Surveillance Unit)に保管されている記録(親族、開業医、および病院から 報 のもの)を調査する。

輪血や血液製剤の投与を介して変異型クロイツフェルト-ヤコブ病(vCJD)が伝播することの公衆衛生上の危険性は、特に血友

告 (結果)

英国の 168 例の vCJD 症例のうち 9 例が、血漿分画製剤の投与をのべ 12 回受けたことがあった (その 12 回のうちの 1 回は 1970 Ø # 矢国の100 約0 VGD 生物のりうちす物が、血液方回来剤やな子をい、12 回えりたことがのつたてい 12 回マリカウ 1 回は 1310 年で vCJD の危険性以前であったが、残りの11 回は1989~1998 年であった)。UK CJD Incident Panel の危険性評価基準によれ ば、11 回は低危険度製品の投与であり、1 回は低もしくは中等度危険度製品の投与であった。 概 、(結論) 嬮

、(Mami) 現在までの英国の vCJD 臨床症例のうちのいずれの例についても、血漿分面製剤への暴露を介して感染したものとは考えられ ない。しかし、将来的にそのような伝播が vCJD 感染例をもたらす可能性は排除し得ない。

	報告企業の意見	今後の対応
ン血で感vCJI 白梨 あない 滞血 男	回の vCJD 臨床症例について過去に血漿分画製剤への曝露があったかについて、国立サーベイラシスユニ に保管されている記録を調査した報告である。 歳分画製剤は理論的な vCJD 伝播リスクを完全には排除できないため、投与の際には患者への説明が必要 ある旨を 2003 年 5 月から添付文書に記載している。2009 年 2 月 17 日、英国健康保護庁(HPA) は vCJD に とした供血者の血漿が含まれる原料から製造された第項因子製剤の投与経験のある血友病患者一名から、 D 異常プリオン蛋白が検出されたと発表したが、弊社の原料血漿採取国である日本及び米国では、欧州 E歴のある献(供) 血希望者を一定の基準で除外し、また国内での BSE の発生数も少数であるため、原料 特中に異常型プリオン蛋白が混入するリスクは 1999 年以前の英国に比べて極めて低いと考える。また、 12程においてプリオンが低減される可能性を検討するための実験を継続して進めているところである。	本報告は本剤の安全性 に影響を与えないと考 えるので、特段の措置 はとらない。

S

2. 重要な基本的注意

の上投与すること。

2) 現在までに本剤の投与により変異型クロイツフェル

ト・ヤコブ病(vCJD)等が伝播したとの報告はない。

しかしながら、製造工程において異常プリオンを低減

し得るとの報告があるものの、理論的な vCJD 等の伝播

のリスクを完全には排除できないので、投与の際には

患者への説明を十分行い、治療上の必要性を十分検討

(1) 略 1) 略

### BENESIS2009-024

Vox Songuines (2009) 97, 207-210

## **ORIGINAL PAPER**

@ 2005 The Author(s) Journal compliation © 2009 International Society of Blood Transfusion DOI: 10.1111/ 1423-0410.2009.01205x

## Variant Creutzfeldt-Jakob disease and exposure to fractionated plasma products

H. J. T. Ward, <sup>1</sup> J. M. MacKenzie, <sup>1</sup> C. A. Llewelyn, <sup>2</sup> R. S. G. Knight, <sup>1</sup> P. E. Hewitt, <sup>3</sup> N. Connor, <sup>4</sup> A. Molesworth <sup>4</sup> H. G. Will<sup>3</sup> Notional CID Surveillance Unit, University of Edinburgh, Western General Haspital, Edinburgh, UK \* NHS Blood and Transplant, Combridge Centre, Cambridge, UK, <sup>3</sup>NHS Blood and Transplant, Colindale Centre, Landon, UK, <sup>4</sup>Health Protection Agency Centre for Infections, London, UK

### APPAN SATURA 1915

Background The risk to public health of onward transmission of variant Creutzfeldt-Jakob disease (vCJD) via blood transfusion and plasma product administration is of on-going concern, particularly with the recent reported detection of abnormal prion protein in a person with haemophilia.

Objectives To describe the history of fractionated plasma product exposure in clinical cases of vCJD in the UK.

Methods Through examination of records held at the National CJD Surveillance Unit (from relatives, general practices and hospitals).

Results Nine out of 168 UK vCJD cases had a history of receipt of fractionated plasma products on 12 different occasions (1 pre-vCID risk in 1970, the remaining between 1989-1998). According to the UK CJD Incident Panel risk assessment criteria, 11 were low-risk products and one was low or medium risk.

Received: 26 April 2009. revised 19 May 2009. accepted 20 May 2009, published online 16 June 2009 Conclusion It is unlikely that any of the UK vCJD clinical cases to date were infected through exposure to fractionated plasma products. However, the possibility that such transmission may result in vCJD cases in the future cannot be excluded. Key words: fractionated plasma products, public health, transfusion, vCJD.

#### Introduction

The risk of onward transmission of variant Creutzfeldt-Jakob disease (vCJD) via blood transfusion and plasma product administration is of on-going concern. This has been highlighted by the recent announcement by the UK's Health Protection Agency of the post-mortem finding of abnormal prion protein in the spleen of a patient with haemophilia who died from a cause unrelated to vCfD [1]. This individual had received UK-sourced fractionated plasma products before 1999, when safety measures were put in place in relation to vCJD, including importation of plasma, mainly from the USA, to manufacture plasma products. There has been no previous

Correspondence: Hester Ward, National CIO Surveillance Unit, University of Edinburgh, Western General Hospital, Edinburgh EH4 2XU, UK E-mail: h.ward@ed.ac.uk

documentation suggesting transmission of any type of CJD by fractionated plasma products. On the other hand, variant CJD has been shown to be transmissible via blood component transfusion, with four instances of transfusion-transmitted vCJD infection to date associated with non-leucodepleted red cells [2-5].

Laboratory studies in animal models have shown that infectivity may be present in plasma both during clinical illness and in the incubation period [6]. Although there is experimental evidence that significant infectivity may he cleared during the production process for fractionated plasma products [7], there are doubts about the interpretation of studies that have been largely based on spiking of plasma with brainderived material rather than endogenous infectivity [8]. In addition, there are varieties of manufacturing processes used in production of plasma products. These findings have drawn attention to the important public health implications of potential secondary transmission of vCID.



In addition to recipients of vC/D-implicated labile blood components, more than 4000 UK-sourced plasma product recipients have been classified and notified by the UK CJD Incidents Panel as 'at risk for public health purposes', in part on the basis of a risk assessment [9]. In 2004, the UK CJD Incidents Panel advised that patients who were treated with UK-sourced fractionated plasma products between 1980 and 2001 and who were exposed to a 1% risk of infection in addition to the hackground risk of the UK population through diet, should be contacted and advised to take public health precautions. Fractionated plasma products were categorized into three groups according to the number of treatments that were likely to result in a patient reaching this risk threshold: high risk (one treatment with factor VIII, factor IX or antithrombini, medium risk (several infusions of intravenous immunoglobulin or 4.5% albumin) and low-risk (intramuscular immunoglobulins or 20% albumin) [1, personal communication!. An exercise was undertaken to trace recipients, estimate individual risk and inform all those who reached this threshold that they were 'at risk of vCJD for public health purposes'. The amount of potential infectivity in the low-risk. category was estimated to be so small that the likelihood of surpassing the threshold was extremely unlikely and so individual recipients did not need to be traced or notified.

Data from actual cases of vCJD are important in attempting to determine the potential risk from fractionated plasma products. This paper descri reported to have received illness. The characteristics involved suggest that these have been the source of vC

Table 1 Variant CID clinical case

Plasma pro

Human norr

vCID case

al risk from fractionated plasm ribes a number of UK vCJD case such products before the onset o s of the specific plasma product se exposures are most unlikely t CJD in these cases.	a from relations and in conf (this pations) Nine December	atives only, two from one case there was n ent was investigated cases of vCJD, with er 1994 and April 2	a general practice records only inimal information available in another country). onset of symptoms between 006, had recorded receipt of on 12 occasions [Table 1]. Five
es reported to have received plasma prod	ucts		
duct	Year given	Year clinical onset of vCID	Batch number known (country of plasma origin, if known)
niał imniunoglobulin <sup>a</sup> bulin for traveli	1990	1994	* (non-UK)

Methods

1999.

Results

The UK National CJD Surveillance Unit (NCJDSU) routinely

collects information on potential risk factors for all cases of

vCJD referred to the unit [10], including data on blood trans-

fusion, plasma product administration, vaccination and

'injection' histories. The information is obtained from inter-

views with relatives of cases and, when available, primary

care and hospital records. Where possible, batch numbers of

fractionated plasma products were obtained for vCJD cases

found to have received such products and compared with

the list of product batches derived from plasma donated by

individuals who later went on to develop vCJD. Eleven of the

168 cases of vCJD referred to the NCJDSU up to end of March

2009 are known to have made 25 plasma donations which

had been used to manufacture 191 batches of fractionated

products, prior to the UK importing plasma from abroad in

To examine whether any of the 168 vCJD cases had received

fractionated plasma products, we examined records held-at

NCJDSU. One hundred and fifty-eight had data available

from relatives and general practice/hospital records, seven

	(gammaglobulin for travel)				
2	Rh(0) immunoglobulin"	1992	1995	*	· , · ·
	Human normal immunoglobulin*	1993		🖌 (non-UK)	
	(gammaglobulin for travel)				1
3	Rh(D) Immunoglobulin*	1991	1996	<ul><li>(UK)</li></ul>	
1	Albumin	1993	1995	*	
<b>S</b> .	Rh(D) immunoglobulin*	1989	1998	. ×	· · · .
	Rh(D) immunoglobulin*	1993		V (UK)	
•	Rh(D) immunoglobulin*	1998		<b>x</b>	
6	Human normal immunoglobulin*	1993	1999	🗸 (non-ÜK)	
	(gammaglobulin for travel)			1	
<b>7</b> .	Human normal immunoglobulin® (for travel)	1991	2000	🖌 (ukt	
3.	Rh(D) immunoglobulin*	1970	2001	¥	
9	Rh(D) immunoglobulin <sup>4</sup>	1997	2006	*	
		and the second			

"Administered intramuscularly; "before the considered start of the vCJD at risk period in 1980.

© 2009 The Author(s)

Journal compliation © 2009 International Society of Blood Transfusion, Vox Sanguinis (2009) 97, 207-210

cases had received Rh(D) immunoglohulin to protect against Rh isoimmunization, four in childbirth (on six occasions) and one (case 9, Tahle 1) with receipt of fresh frozen plasma. Before travel, four cases had received normal human immunoglobulin for intramuscular use (free gammaglobulin, one human normal immunoglobulin), including one case (case 2, Table 1) who had received Rh(D) immunoglobulin previously. The remaining case was given albumin (unknown concentration) for 'cover' during a paracentesis procedure. One of the ninc cases received Rh(D) immunoglobulin in 1970 hefore the considered start of the vCJD at risk, period (1980) and the other eight received products between 1983 and 1998.

Batch numbers were available for only two of the seven Rh[D] immunoglobulin products, which indicated the UK as origin of the plasma in these two cases. However, batch numbers were available for all four intramuscular human normal immunoglobulin/gammaglobulin products and one of these was of UK origin. The albumin batch number was not recorded. No batch number matched any others, nor did the batch numbers match any of those from products known to have included plasma donated from individuals who subsequently went onto develop vCID.

#### Discussion

Of the nine vCJD patients who had received fractionated plasma products, the batch numbers of the plasma products, where known, did not correlate with any of the batches derived from pools containing a donation from a person who went on to develop vCJD. Eight bad received products considered by the UK CJD incidents Panel as low risk and one person had received a low-/medium-risk product (albumin of unknown concentration). It is, therefore, unlikely that administration of plasma product was the source of vCJD infection these cases.

Thirty-two of the 74 female vCJD cases had children and, of these, four (13%) were reported to have received Rh(D) immunoglobulin. In the UK, 17% of all women are RhD negative. Approximately 10% of all UK pregnancies are in RhD negative mothers bearing RhD positive babies, and these women should all receive routine Rh(D) immunoglobulin after delivery [11]. Although less likely now, in the past RhD negative wornen may have been given Rh(D) immunoglobulin without the blood group of the baby being known, resulting in more than 10% receiving Rh(D) immunoglobulin. However, the median age at death in vCJD is only 28 years and the proportion of women with vCJD who received Rh(D) immunoglobulin is comparable to the likely exposure rate in the general population.

The lack of evidence of transmission of vCJD through fractionated plasma products assumes that accurate and thorough information has been obtained on relevant exposure [10]. Information was available from relatives, hospital notes at the time of admission for the terminal illness and

from primary care records in 158 of the 168 cases included in this analysis. In this group, it is unlikely that any plasma product exposure was missed and, in particular, it is unlikely that higher-risk exposures involving long-term treatment with plasma products, such as treatment of haemophilia, were undetected. This is prohably also true for the seven cases In which information from relatives was the only source of data on past exposures. However, it is possible that prior treatment, for example with albumin or intravenous immunoglohulin, could have heen missed and it was only possible to identify batch numbers in half of plasma products identified as having been used in vCJD cases. There is also the possibility that infection via plasma products might result in a protracted incubation period because of the relatively low dose exposure and that cases of vCJD infected through this mechanism bave yet to occur.

In conclusion, it is unlikely that any of the UK vCJD clinical cases to date were infected through exposure to fractionated plasma products. However, the possibility that such transmission may result in vCJD cases in the future cannot be excluded.

#### References

- 1 Variant CJD and plasma products: Health Printection Agency, Available at http://www.hpa.org.uk/webw/HPAweb@HPAweb Standard/tPAweb\_C/11957338186817pw1225960597236 [Accessed 31 March 2009]
- 2 Llewelyn CA. Hewitt PE, Knight RSG, Amar K, Cousens S, Mackenzie J, Will RG: Possible transmission of variant Creutzfeldt-Jakoh disease by blood transfusion. Lancri 2004; 363:417-421
- Peden AH, Head MW, Ritchie DL, Bell JE, Ironside JW: Preclinical vCJD after blood transfusion in a PRNP codon 129 heterozygous patient. Loncer 2004; 364:527-529
- 4 Health Protection Agency: Fourth case of transfusion-associated variant-CID. Health Protection Report 2007, 1. Available at http://www.hpa.org.uk/bpr/archives/2007/hpr0307.pdf [Accessed 8 June 2009]
- 5 Wroe SJ, Pal S, Siddique D, Hyare H, Macfarlane R, Jolner S, Linchan JM, Brandner S, Wadsworth JD, Hewitt P, Collinge J: Clinical presentation and pre-montent diagnosis of variant Creutzfeldt-Jakob disease associated with hlood transfusion: a case report. Lancer 2006; 368:2061-2067
- 6 Brown P, Cervenakova L, McShane LM, Barber P, Rubenstein R, Drohan WN: Further studies of blood infectivity in an experimental model of transmissible spangiform excephalopathy, with an explanation of why blood components do not transmit Creutzfeldi-Jakob disease in burman. Transfusion 1993; 139:1169–1178
- 7 Foster PR: Removal of TSE agents from blood products. Vox Song 2004; 87 (Suppl. 2):57-510
- 8 Gregori L, Gurgel PV, Lathrop JT, Edwardson P, Lambert BC, Carbonell RG, Burton SJ, Hammond DJ, Robwer RG: Reduction in infectivity of endogenous transmissible spongiform encephalopathies present in blood by adsorption to selective affinity resins. Lancet 2006; 368:2226-2230

#### © 2009 The Author(s)

Journal compilation @ 2009 International Society of Blood Transfusion, Vax Sanguinis (2009) 97, 207-210

- 9 Risk of Infection from variant CJD in Blood: Det Norske Veritas' Consulting. April 2004. Available at http://www.dov.com/ pews\_evenis/news/2004/clskofinfectionfromvarianteidinblood.asp [Accessed 18 November 2008]
- 10 Ward HJT, Everington D, Couseus SN. Smith-Bathgate B, Leiteh M, Cooper S, Heath C, Knight RSG, Smith PG, Will RG:

Risk factors for variant Creutzfeldt-Jakob disease: a case-control study. Ann Neurol 2006; 59:111-120

 Haemolytic discase of the fetus and newborn; in Klein HG. Anstee DJ (eds): Mollison's Blood Transfusion in Clinical Medicine, 11th edn. Oxford, Blackwell Science, 2005:504

© 2009 The Author(s)

122

Journal compilation @ 2009 International Society of Blood Transfusion, Var Sanavisis (2009) 97, 207-210

					· 生物由来成分	項有 <b>利</b> (第二)					通行使制
100071	2009/12/17	90805	パクスター	乾燥イオン交換樹 脂処理人免疫グロ ブリン	人免疫グロブ リンG	人血漿	米国	有効 成分	無	有	無
100072	2009/12/17	90806	パクスター	乾燥イオン交換樹 脂処理人免疫グロ ブリン	人血清アルブ ミン	人血漿	米国	添加 物	無	有	無

124

# B 個別症例報告概要

O 総括一覧表O 報告リスト

## 個別症例報告のまとめ方について

個別症例報告が添付されているもののうち、個別症例報告の重複 を除いたものを一覧表の後に添付した(国内症例については、資料 3において集積報告を行っているため、添付していない)。